

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大原簿記専門学校大阪校
設置者名	学校法人大原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	税理士・公認会計士学科(公認会計士コース)	夜・通信	180 時間	80×2 =160 時間	
	税理士・公認会計士学科(税理士コース)	夜・通信	180 時間	80×2 =160 時間	
	総合ビジネス学科	夜・通信	305 時間	80×2 =160 時間	
	ビジネス学科	夜・通信	395 時間	80×1 =80 時間	
	ビジネス本科 1年制	夜・通信	350 時間	80×1 =80 時間	
	ビジネス学科	夜・通信	150 時間	80×1 =80 時間	
	税理士本科 1年制学科	夜・通信	150 時間	80×1 =80 時間	
医療専門課程	救急救命士学科	夜・通信	1,125 時間	80×3 =240 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大原簿記専門学校大阪校
設置者名	学校法人大原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer_list.pdf</p>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	司法書士事務所 所長 (1978.7～)	2006.4.1～ 2023.3.31	法人運営における 法務的な検証、管理
非常勤	Webデザイン・システム開 発・印刷関連企業 代表 (2003.10～)	2019.4.1～ 2023.3.31	学生募集、教材開発 への助言
非常勤	前：不動産関連企業 代表 (1961.8～1988.10)	2015.4.1～ 2023.3.31	校舎等学習環境の 整備への助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大原簿記専門学校大阪校
設置者名	学校法人大原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。																						
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)																						
【作成に係る取組み】 教育課程編成委員会(年2回実施)において各分野の専門家から助言を頂戴する。その後学内会議にて、授業内容の見直しを実施し、前年度末までに授業計画書(シラバス)を作成し公開の準備を行う。																						
【公表に係る取組み】 新年度オリエンテーションで授業計画書の概要を説明している。加えて、ホームページ上で全学科全科目の授業計画書(シラバス)を公開し、常時閲覧できる体制と整えている。																						
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/																					
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。																						
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)																						
学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。																						
【学業成績の判定および成績証明書の表記】																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>判定</th> <th>評価点</th> <th>成績評価</th> <th>成績証明書表記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>100点～90点</td> <td>秀</td> <td>秀</td> </tr> <tr> <td>89点～80点</td> <td>優</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>79点～70点</td> <td>良</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>69点～60点</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>59点以下</td> <td>不可</td> <td>非表示</td> </tr> </tbody> </table>	判定	評価点	成績評価	成績証明書表記	合格	100点～90点	秀	秀	89点～80点	優	優	79点～70点	良	良	69点～60点	可	可	不合格	59点以下	不可	非表示
判定	評価点	成績評価	成績証明書表記																			
合格	100点～90点	秀	秀																			
	89点～80点	優	優																			
	79点～70点	良	良																			
	69点～60点	可	可																			
不合格	59点以下	不可	非表示																			
※当該授業科目ごとに定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。																						

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。																													
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>(1) 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>(2) 授業科目の成績は(1)の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して以下に定める基準によりGP(Grade Point)を与える。</p> <p>【科目ごとの成績評価に対するGP(Grade Point)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>評価点</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>100点～90点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>89点～80点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>79点～70点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>69点～60点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>59点以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>認定</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>対象外</td> </tr> </tbody> </table> <p>【GPA算出方法】</p> $\text{GPA} = \frac{(\text{科目の単位数} \times \text{当該科目で付与されたGP}) \text{の合計}}{\text{履修科目の単位数の合計}}$ <p>※小数点以下第2位四捨五入</p>		成績評価	GP	評価点	備考	秀	4	100点～90点		優	3	89点～80点		良	2	79点～70点		可	1	69点～60点		不可	0	59点以下		認定	—	—	対象外
成績評価	GP	評価点	備考																										
秀	4	100点～90点																											
優	3	89点～80点																											
良	2	79点～70点																											
可	1	69点～60点																											
不可	0	59点以下																											
認定	—	—	対象外																										
客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/																												
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。																													
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定は、修業年限以上在学し、下記に定める授業時間数以上履修、かつその該当する所定の授業科目を修得し、卒業審査に合格した者について最終学年の終わりに校長が行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>修業年限</th> <th>授業時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>税理士・公認会計士学科</td> <td>2年</td> <td>1,700時間以上</td> </tr> <tr> <td>総合ビジネス学科</td> <td>2年</td> <td>1,700時間以上</td> </tr> <tr> <td>ビジネス学科(昼間部)</td> <td>1年</td> <td>800時間以上</td> </tr> <tr> <td>ビジネス本科1年制</td> <td>1年</td> <td>800時間以上</td> </tr> <tr> <td>ビジネス学科(夜間部)</td> <td>1年</td> <td>800時間以上</td> </tr> <tr> <td>税理士本科1年制</td> <td>1年</td> <td>800時間以上</td> </tr> <tr> <td>救急救命士学科</td> <td>3年</td> <td>2,565時間以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、救急救命士学科においては、次に掲げる3項目を満たしていること。</p> <p>(1) 履修時間の出席率 授業科目ごとの出席時間数が履修時間数の3分の2に満たない者、および実習の出席時間数が履修時間数の5分の4に満たない者は、履修の認定をしないこととする。また、救急病院実習については履修時間数が160時間に満たない者は、履修の認定をしないこととする。</p> <p>(2) 授業科目ごとの学業成績</p> <p>(3) 実習先施設の評価</p>		学科	修業年限	授業時間数	税理士・公認会計士学科	2年	1,700時間以上	総合ビジネス学科	2年	1,700時間以上	ビジネス学科(昼間部)	1年	800時間以上	ビジネス本科1年制	1年	800時間以上	ビジネス学科(夜間部)	1年	800時間以上	税理士本科1年制	1年	800時間以上	救急救命士学科	3年	2,565時間以上				
学科	修業年限	授業時間数																											
税理士・公認会計士学科	2年	1,700時間以上																											
総合ビジネス学科	2年	1,700時間以上																											
ビジネス学科(昼間部)	1年	800時間以上																											
ビジネス本科1年制	1年	800時間以上																											
ビジネス学科(夜間部)	1年	800時間以上																											
税理士本科1年制	1年	800時間以上																											
救急救命士学科	3年	2,565時間以上																											
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/																												

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大原簿記専門学校大阪校
設置者名	学校法人 大原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf
財産目録	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf
事業報告書	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

【税理士・公認会計士学科 公認会計士コース】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	税理士・公認会計士 学科公認会計士コー ス	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間	2,116 単位時間	1,694 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
単位時間／単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人内数		31 人	0 人	19 人	1 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程編成委員会（年2回実施）において各分野の専門家から助言を頂戴する。 その後学内会議にて、授業内容の見直しを実施し、年度末までに授業計画書（シラバス） を作成し公開の準備を行う。
成績評価の基準・方法
（概要） 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内 に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限 り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験 等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対 して実施する。 各授業科目の成績評価方法については別に定める。※様式2号の3「3」に記載
卒業・進級の認定基準
（概要） 1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、か つ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。 2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその 該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審 査に合格した者について校長が行う。

学修支援等 (概要) クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学生間の結びつきを強め、個別学習相談や就職相談などを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	8人 (72.7%)	1人 (9.1%)	2人 (18.2%)
(主な就職、業界等) 会計事務所			
(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、個別面接トレーニングなど			
(主な学修成果（資格・検定等）) 公認会計士試験 短答式 公認会計士試験 論文式 日本電卓技能検定協会 電卓検定各級、各段位			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	3人	14.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更による退学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。		

【税理士・公認会計士学科 税理士コース】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	税理士・公認会計士 学科税理士コース	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間	5,210 単位時間	3,190 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人内数		24 人	0 人	19 人	1 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程編成委員会（年2回実施）において各分野の専門家から助言を頂戴する。 その後学内会議にて、授業内容の見直しを実施し、年度末までに授業計画書（シラバス） を作成し公開の準備を行う
成績評価の基準・方法
（概要） 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内 行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限 り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験 等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対 して実施する。 各授業科目の成績評価方法については別に定める。※様式2号の3「3」に記載
卒業・進級の認定基準
（概要） 1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、か つ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。 2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその 該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審 査に合格した者について校長が行う。
学修支援等
（概要） クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・ 学生間の結びつきを強め、個別学習相談や就職相談などを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 (100%)	11 人 (84.6%)	1 人 (7.7%)	1 人 (7.7%)
（主な就職、業界等） 会計事務所			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、個別面接トレーニングなど
(主な学修成果 (資格・検定等)) 税理士試験 各科目 日本電卓技能検定協会 電卓検定各級、各段位
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	1人	4.2%
(中途退学の主な理由) 就職による退学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。		

【総合ビジネス学科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	総合ビジネス学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間	2,863 単位時間	2,847 単位時間	1,620 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		86人	34人	19人	1人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程編成委員会（年2回実施）において各分野の専門家から助言を頂戴する。 その後学内会議にて、授業内容の見直しを実施し、年度末までに授業計画書（シラバス） を作成し公開の準備を行う。
成績評価の基準・方法
（概要） 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内 に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に 限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験 等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対 して実施する。 各授業科目の成績評価方法については別に定める。※様式2号の3「3」に記載
卒業・進級の認定基準
（概要） 1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、か つ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。 2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその 該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審 査に合格した者について校長が行う。
学修支援等
（概要） クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学 生間の結びつきを強め、個別学習相談や就職相談などを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
57人 (100%)	2人 (3.5%)	39人 (68.4%)	16人 (28.1%)
（主な就職、業界等） 一般企業			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、個別面接トレーニングなど
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本商工会議所簿記検定各級 日本ビジネス技能検定協会簿記検定各級 日本ビジネス技能検定協会漢字検定1級 電卓技能検定協会各級、各段位
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
127人	11人	8.7%
(中途退学の主な理由) 家庭都合による退学、就職による退学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。		

【ビジネス学科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	ビジネス学科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間	5,746 単位時間	4,524 単位時間	240 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		75人	0人	19人	1人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程編成委員会（年2回実施）において各分野の専門家から助言を頂戴する。 その後学内会議にて、授業内容の見直しを実施し、年度末までに授業計画書（シラバス） を作成し公開の準備を行う。
成績評価の基準・方法
（概要） 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内 に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限 り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験 等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対 して実施する。 各授業科目の成績評価方法については別に定める。※様式2号の3「3」に記載
卒業・進級の認定基準
（概要） 1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、か つ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。 2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその 該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審 査に合格した者について校長が行う。
学修支援等
（概要） クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学 生間の結びつきを強め、個別学習相談や就職相談などを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	25人 (89.3%)	3人 (10.7%)	0人 (0.0%)
（主な就職、業界等） 一般企業、公務員、会計事務所			
（就職指導内容） 全体指導によるレクチャー、個別面接トレーニングなど			

<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>税理士試験 各科目 公認会計士試験 短答式、論文式 各種公務員試験</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>引き続き税理士試験合格などを目指し、多くの学生がビジネス学科など同学習をする学科へ進学をした。</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	56 人	66.7%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>試験受験終了による前期での修了退学</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。</p>		

【ビジネス本科1年制学科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	ビジネス本科1年制学 科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間	6,119 単位時間	4,545 単位時間	60 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		15人	0人	19人	1人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>教育課程編成委員会（年2回実施）において各分野の専門家から助言を頂戴する。その後学内会議にて、授業内容の見直しを実施し、年度末までに授業計画書（シラバス）を作成し公開の準備を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>各授業科目の成績評価方法については別に定める。※様式2号の3「3」に記載</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者について校長が行う。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学生間の結びつきを強め、個別学習相談や就職相談などを行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	10人 (52.6%)	6人 (31.6%)	3人 (15.8%)
(主な就職、業界等) 会計事務所			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、個別面接トレーニングなど
(主な学修成果(資格・検定等)) 税理士試験 各科目 公認会計士試験 短答式、論文式 各種公務員試験
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	3人	13.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更による退学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。		

【ビジネス学科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	ビジネス学科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜	800 単位時間	3,690 単位時間	2,040 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		6人	0人	19人	1人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程編成委員会（年2回実施）において各分野の専門家から助言を頂戴する。 その後学内会議にて、授業内容の見直しを実施し、年度末までに授業計画書（シラバス） を作成し公開の準備を行う。
成績評価の基準・方法
（概要） 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内 に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限 り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験 等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対 して実施する。 各授業科目の成績評価方法については別に定める。※様式2号の3「3」に記載
卒業・進級の認定基準
（概要） 1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、か つ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。 2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその 該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審 査に合格した者について校長が行う。
学修支援等
（概要） クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学 生間の結びつきを強め、個別学習相談や就職相談などを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	3人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
（主な就職、業界等） —			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、個別面接トレーニングなど
(主な学修成果(資格・検定等)) 税理士試験 各科目
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	8人	72.7%
(中途退学の主な理由) 試験受験終了による前期での修了退学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。		

【税理士本科1年制学科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	税理士本科1年制学 科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜	800 単位時間	3,690 単位時間	2,040 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		3人	0人	19人	1人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>教育課程編成委員会（年2回実施）において各分野の専門家から助言を頂戴する。その後学内会議にて、授業内容の見直しを実施し、年度末までに授業計画書（シラバス）を作成し公開の準備を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>各授業科目の成績評価方法については別に定める。※様式2号の3「3」に記載</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者について校長が行う。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学生間の結びつきを強め、個別学習相談や就職相談などを行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	3人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
—			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、個別面接トレーニングなど
(主な学修成果(資格・検定等)) 税理士試験 各科目
(備考) (任意記載事項) 引き続き税理士試験合格を目指し、全員が税理士本科1年制学科など同学習をする学科へ進学をした。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由) —		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。		

【救急救命士科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療 専門課程	救急救命士学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,565 単位時間	1,160 単位時間	180 単位時間	1,225 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		96人	0人	19人	1人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>教育課程編成委員会（年2回実施）において各分野の専門家から助言を頂戴する。その後学内会議にて、授業内容の見直しを実施し、年度末までに授業計画書（シラバス）を作成し公開の準備を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>各授業科目の成績評価方法については別に定める。※様式2号の3「3」に記載</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者について校長が行う。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制を導入し、出席状況や学習状況について毎月確認を行っている。担任・学生間の結びつきを強め、個別学習相談や就職相談などを行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23人 (100%)	1人 (4.3%)	20人 (87.0%)	2人 (8.7%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>救急救命士職を中心とした各種公務員</p>			

(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、個別面接トレーニングなど
(主な学修成果(資格・検定等)) 救急救命士試験 日本ビジネス技能検定協会漢字検定1級 電卓技能検定協会各級、各段位
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
92人	10人	10.9%
(中途退学の主な理由) 就職による退学、進路変更による退学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中途退学防止の取組として、担任による定期面談を行っている。加えて、学生のシグナルを感じ取った際には担任・管理職による面談を随時行っている。近年は経済的理由による退学希望者も僅かながら発生しているため、学生管理課による経済的支援の相談も随時行っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
税理士・公認会計士学科	200,000 円	680,000 円	360,000 円	
総合ビジネス学科	200,000 円	680,000 円	360,000 円	
ビジネス学科	200,000 円	680,000 円	360,000 円	昼間部
ビジネス本科1年制学科	200,000 円	680,000 円	360,000 円	
ビジネス学科	100,000 円	400,000 円	180,000 円	夜間部
税理士本科1年制学科	100,000 円	400,000 円	180,000 円	
救急救命士学科	200,000 円	660,000 円	420,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
学費支援制度：奨学生試験の結果や取得している資格に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除 試験による特別奨学生 取得資格による特別奨学生 クラブ特別奨学生				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
<p>教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、またその教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、自己点検(自己評価)を行いその結果につき、学校関係者評価委員会を設置して種々の評価項目から評価する。</p> <p>(1) 主な評価項目 「学校運営」「教育活動」「地域貢献」等</p> <p>(2) 評価委員の構成 「企業等評価委員」「地域住民評価委員」「専門家評価委員」等複数名から構成されている。また、近隣で授業を運営している大原法律公務員&スポーツ専門学校大阪校、大阪歯科衛生学院専門学校、大阪保育こども教育専門学校の学校関係者評価委員と意見を交換することにより、多角的な視点からの意見聴取及び検討を実施するようにしている。</p> <p>(3) 評価結果の活用方法 課題の残る評価結果については、管理職による改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
ふたば社会保険労務士法人 代表社員	2020.4.1~2022.3.31	企業等委員
社会福祉法人博光福祉会 幼保連携型認定 こども園宮前つばさ幼稚園 園長	2019.4.1~2021.3.31 2021.4.1~2023.3.31 (留任)	企業等委員
税理士法人エム・アンド・アイ 税理士	2019.4.1~2021.3.31 2021.4.1~2023.3.31 (留任)	企業等委員
株式会社ナレッジラボ 公認会計士 (2021.3.31付で退任。2021.4.1山邊公認会計士事務所 代表公認会計士が就任)	2019.4.1~2021.3.31 2021.4.1~2023.3.31 (留任)	企業等委員
イオンリテール株式会社 近畿.カンパニー 人事総務部長	2019.4.1~2021.3.31 2021.4.1~2023.3.31 (留任)	企業等委員
オクムラ歯科医院 院長	2020.4.1~2022.3.31	企業等委員
しげなが歯科・矯正歯科 医院長	2019.4.1~2021.3.31 2021.4.1~2023.3.31 (留任)	企業等委員
社会福祉法人済生会千里病院 救急救命士 (2021.3.31付で退任。2021.4.1付日本救急システム株式会社 救急救命士が就任)	2020.4.1~2021.3.31 2021.4.1~2023.3.31 (留任)	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

https://www.o-hara.ac.jp/osaka/senmon/school/osaka_boki/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。